

# 片瀬のぞみだより

宗教学法人日本基督教団片瀬教会付属

片瀬のぞみ幼稚園

2024年9月号

家庭通信 2024 No.11

## 「このような環境中で育つ・育てる」

まずは、保護者の方々に「おつかれさまでした。」です。去年の9月のたよりにも記したかと思いますがここ数年の夏の暑さはとても厳しく、一昔前の「夏の太陽の光をたっぷり浴びて」とか「外で元気に虫取り」とか「真っ黒日焼けが勲章」などの夏にどれだけ外で遊んだかが成長の鍵となっていた頃とは違い、毎日発令される熱中症警戒アラートと酷暑とで外から子どもたちの声は聞こえず、姿も見られず、観光客の声と姿が目立ちました。ということは、お家で過ごす時間がお出かけ以外ではほとんどだったのではないのでしょうか？そうした中で、子どもたちが1学期に培った心と体のパワーをお家で開放したらと考えると…。子どもの遊びたい気持ちに十分に寄り添って、その環境を整えていくことの難しさは私も重々承知しています。それが外にも出られず、朝昼晩寝食を共にする家族とその場所のみで子どもの活動を十分に広げていくことはとても難しいことだと思います。そして、昔より子どもたちが気持ちや体を動かさないで静かにしていただけるたくさんのモノが、保護者のニーズに答えるべく上手に蔓延しているのです。だから、頼ってしまうでしょう。頼らずにはいられない時もあるかもしれません。「うるさいから外で遊んでらっしゃい。」(本当によく言われました。)今では、特に幼児に対してとても言える言葉ではありません。でも、子どもたちはその中で心と体を育まなくてはなりませんし、この期間も子どもたちの成長の階段として止まらずに上がっています。では、どうしたらよいのでしょうか。「子育てに正解なし」という言葉があるようにこの時代この気象の中、瞬時に答えが出せるとは到底考えつきません。便利で過ごしやすくなっていく現代社会において、もしかしたら、子どもを育てることは昔よりも難しくなっているのかもしれない。だから、放っておけないのかもしれない。また与えるモノ、環境、時間をしっかりと選ばないといけないのかもしれない。きっと、このお手紙を届けている頃には、久々の子どもたちとの再会に胸を躍らせ大騒ぎしている事でしょう。そして、ちょっぴりお兄さん、おねえさんになった顔立ちや背格好、言葉に感動するとともに元気に夏のエネルギーをたくさん浴びて大きくなったんだなと感じることでしょう。でも、近年このような気候の中での夏が増えてきたのは確かであり、こんなにも気象が子どもたちの生活と成長に直結していることに気付くことが出来ました。何より見た目とおり「夏大好き男」だから子どもたちに夏を嫌いになって欲しくありませんし、夏＝お部屋の中で安全に、にもなって欲しくはありません。しかし、幼児の心と体と成長を支える保護者にとって夏の過ごし方はとても難しくなってきたとともにまずは「おつかれさまでした。」と伝えさせてください。しっかりとリレーのようにバトンをもらい、幼稚園で子どもと一緒に走り出したいと思います。今学期もご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。

片瀬のぞみ幼稚園 園長 横山流